

☆人事異動

新年度になり、当所にも新たに職員が配属されました。と畜場では、今年度の6月からHACCPによる衛生管理が義務化され、それが適切に運用されているかどうかをと畜検査員が検証することになります。新たな仲間を迎え、新たな制度により、一層安心・安全な食肉の流通に貢献していきたいと思っております。(F)

当所では次のとおり異動がありました。

転入

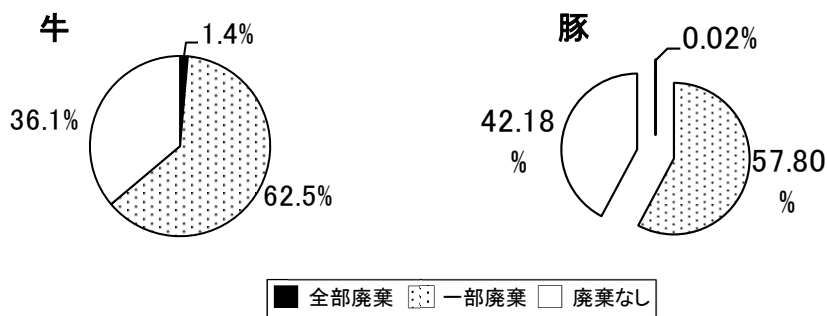
北川 稔(副主幹(再任用職員))

☆と畜検査状況

◎と畜検査頭数および廃棄の原因 (令和3年1月～3月)

畜種	牛		とく		豚		山羊	
	全部廃棄	一部廃棄	全部廃棄	一部廃棄	全部廃棄	一部廃棄	全部廃棄	一部廃棄
と畜検査頭数	1,223		6		15,636		0	
実頭数	17	764	0	5	3	9,037	0	0
廃棄の原因	放線菌症	0	0	0	0	0	0	0
	ミコバクテリウム症	0	0	0	0	0	284	0
	ジストマ	0	0	0	0	0	0	0
	寄生虫症	0	0	0	0	0	0	0
	膿毒症	0	0	0	0	3	0	0
	敗血症	1	0	0	0	0	0	0
	尿毒症	0	0	0	0	0	0	0
	黄疸	2	0	0	0	0	0	0
	水腫	6	93	0	3	0	14	0
	腫瘍	0	0	0	0	0	0	0
	炎症汚染	0	503	0	3	0	6,246	0
	変性萎縮	0	374	0	4	0	3,111	0
	牛伝染性リンパ腫	8	0	0	0	0	0	0
	豚丹毒	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	153	0	5	0	1,181	0	
計	17	1,123	0	15	3	10,836	0	0

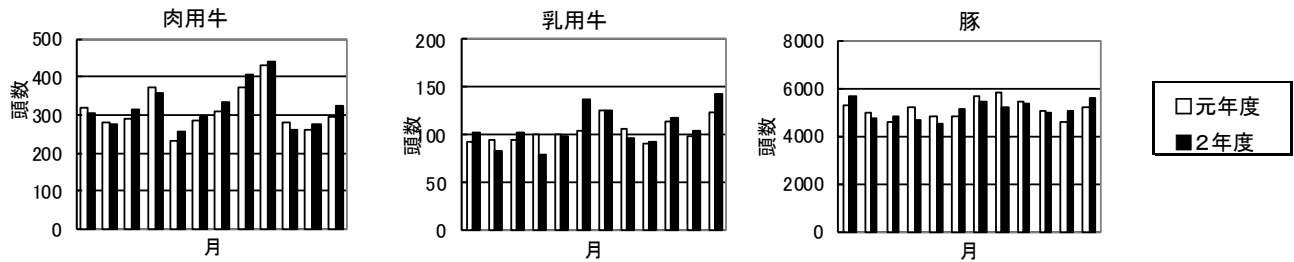
一部廃棄は原因が複数にわたる場合があり、廃棄の原因の合計が実頭数を上回ることがある。



◎と畜検査頭数の推移（令和2年度）（とくを除く）

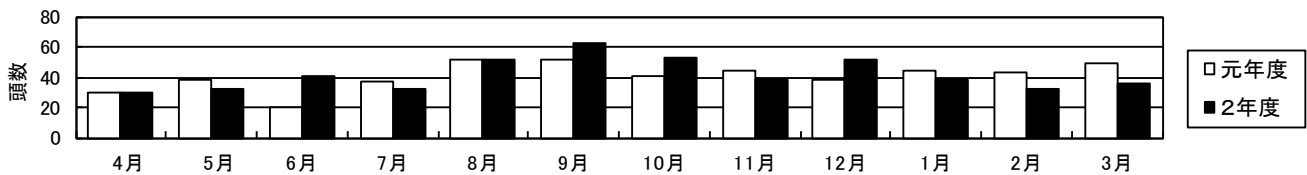
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
元年度肉用牛	317	282	288	370	233	285	308	371	429	279	261	293	3,716
2年度肉用牛	304	275	315	357	258	295	332	408	439	260	276	324	3,843
前年比(%)	95.9	97.5	109.4	96.5	110.7	103.5	107.8	110.0	102.3	93.2	105.7	110.6	103.4
元年度乳用牛	91	93	94	100	100	104	124	105	90	114	98	123	1,236
2年度乳用牛	101	82	102	78	98	137	124	96	92	117	103	143	1,273
前年比(%)	111.0	88.2	108.5	78.0	98.0	131.7	100.0	91.4	102.2	102.6	105.1	116.3	103.0
元年度豚	5321	4953	4566	5233	4816	4796	5650	5810	5467	5080	4627	5242	61,561
2年度豚	5635	4711	4847	4705	4482	5111	5432	5180	5403	4991	5067	5578	61,142
前年比(%)	105.9	95.1	106.2	89.9	93.1	106.6	96.1	89.2	98.8	98.2	109.5	106.4	99.3

肉用牛は黒毛和種、交雑種等、乳用牛はホルスタイン種、ジャージー種等である。



◎病獣畜と畜検査頭数(令和2年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
元年度	30	38	20	37	52	52	41	44	38	44	43	49	488
2年度	30	32	41	32	52	62	53	38	52	38	32	36	498
前年比(%)	100.0	84.2	205.0	86.5	100.0	119.2	129.3	86.4	136.8	86.4	74.4	73.5	102.0



1月～3月の病獣畜106頭は、すべて牛及びとくであった。

◎時間帯別病獣畜と畜検査頭数(令和3年1月～3月)

受付時間	頭数	うち緊急性		頭数割合(%)
		なし	あり	
(時間外)6:00～8:30	1	1	0	0.9
(時間内)8:30～14:00	105	101	4	99.1
(時間外)14:00～16:00	0	0	0	0.0
16:00～20:00	0	0	0	0.0
土曜日等	0	0	0	0.0
合計	106	102	4	

※土曜日等は翌週のと畜までに死亡すると判断された病獣畜が搬入される。

◎地域別病獣畜と畜検査頭数(令和3年1月～3月)

地域	岡山	東備	倉敷	井笠	高梁	阿新	真庭	津山	勝英	県外	場内	計
頭数	20	6	3	57	14	2	1	3	0	0	0	106
(うち時間外)	(1)											(1)
頭数割合(%)	18.9	5.7	2.8	53.8	13.2	1.9	0.9	2.8	0.0	0.0	0.0	

☆検査室等における精密検査（令和3年1月～3月）

畜種	疑頭数	疾病名	検査件数						診定頭数	否診定頭数	畜種	疑頭数	疾病名	検査件数						診定頭数	否診定頭数			
			肉眼	鏡検	培養	血清反応	理化学	遺伝子						病理組織	肉眼	鏡検	培養	血清反応	理化学			遺伝子	病理組織	
牛及びとく	4	敗血症			36					1	3	豚	0	敗血症								0	0	
	0	膿毒症								0	0		3	膿毒症	3								3	0
	0	尿毒症								0	0		0	尿毒症									0	0
	2	高度の黄疸					2			2	0		0	高度の黄疸									0	0
	6	高度の水腫	6							6	0		0	高度の水腫									0	0
	8	牛伝染性リンパ腫					8	76		8	0		0	豚丹毒									0	0
	0	腫瘍の多発								0	0		0	白血病									0	0
	20	計		6	0	36	0	10	0	76	17		3	3	計	3	0	0	0	0	0	0	0	3

解体検査で判定困難な疾病について、精密検査を実施し、食用の適否を判定している。

◎残留有害物質検査（令和3年1月～3月）

・保留畜・病畜スクリーニング

畜種	区分	検査頭数	検査検体数	陰性頭数	陽性頭数	陽性検体数					陰性検体数
						筋肉	腎臓	注射痕	乳房	その他	
牛・とく	保留	4	8	4	0	0	0	0	0	0	8
	病畜	106	212	103	3	0	3	0	0	0	209
豚	保留	7	14	7	0	0	0	0	0	0	14
	病畜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
山羊	保留	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	病畜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

病畜牛の腎臓3検体において、直接法陽性であった。

・一般畜モニタリング

畜種	検査頭数	検査検体数	陰性頭数	陽性頭数
牛	6	12	6	0
豚	18	36	18	0
鶏	0	0	0	0

◎BSE（牛海綿状脳症）スクリーニング検査

令和3年1月～3月におけるBSEスクリーニング検査数は2月に1件実施し、結果は陰性であった。

（平成29年4月1日以降、月齢24か月以上で、原因不明の神経症状及び起立不能を呈する牛を対象に実施）

発行：岡山市食肉衛生検査所
 TEL：086-272-8399 FAX：086-273-2019
 E-mail：shokunikueiseikensasho@city.okayama.lg.jp
 「枝肉を全部廃棄した牛の解体所見」のメール配信希望等、ご意見、ご要望
 ありましたらお気軽にご連絡ください。